トゥールミン図式とヴェン図を使った法教育について

科学基礎論学会　シンポジウム
「法の論理と哲学」での報告

2016年6月18日

明治学院大学法学部　教授
加賀山　茂

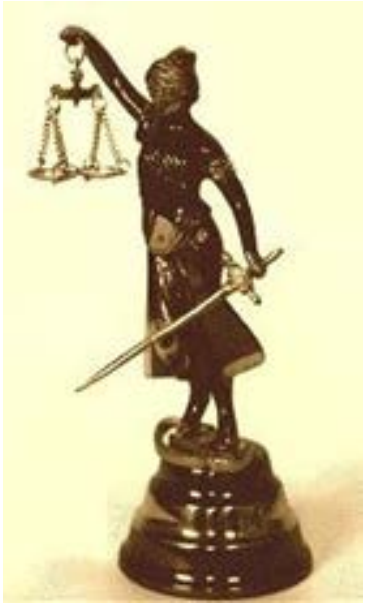
目次

- 法教育の理念と到達目標
  - 法教育の理念と到達目標は何か？
  - 演繹，帰納から発見の推論へ
- 法律家の思考方法
  - 刑法と民法との対比，因果関係とは？
  - 判決三段論法，問題点：障害・消滅事由
  - アイラック(IRAC)
    - アイラック(IRAC)とは何か？
    - 事実認定とルールとの関係
    - 漁網用タール事件
  - トゥールミン図式
    - 第1段階，第2段階，第3段階
- 法の解釈
  - 法の解釈の必要性
  - 「車馬通行止め」の解釈
- 民法770条の解釈
  - 民法770条（裁判上の離婚原因），統計
  - 抽象的要件と具体的な例示との関係
  - 民法770条の立法提案
- 民法612条の解釈
  - 民法612条（賃貸借の無断譲渡・転貸の禁止）
  - 隠された真の要件と例示との関係
  - 分析，時代背景，立法提案
- 今後の研究課題
  - 憲法と民法との関係
  - 民法の全体像1，2，3
  - 民法のGoogleマップ1，2，3，4，5，6
  - エンドロール

法教育の理念と到達目標は何か？

司法改革審議会意見書（2001）

- **事実に即して**具体的な法的問題を解決していくため必要な**法的分析能力**や法的**議論の能力**等を育成する。



- NHK病名推理番組
- 総合診療医ドクターG

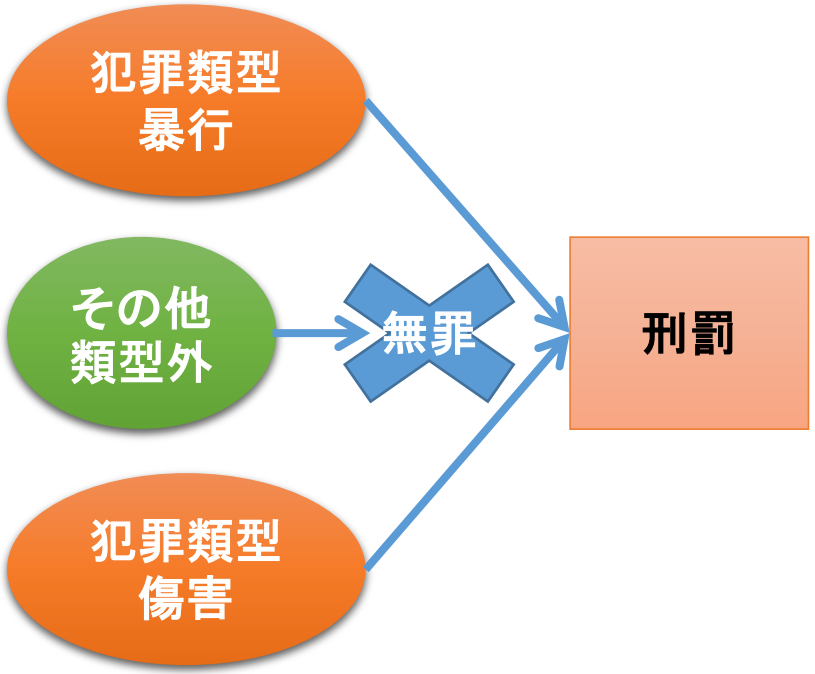
- 患者の病状から，病名を解明し，診療方法を確定するまでのプロセスを見せる。
  - 研修医の最初の見立ては，全て外れ。
  - 総合診療医のアドバイスを受けながら，可能性のある病名を全てチェックし，除外すべきものを除外して，正解にたどり着く。

判決三段論法と法的思考

- 第709条（不法行為による損害賠償）
  故意又は過失によって他人の権利又は法律上保護される利益を侵害した者は，これによって生じた損害を賠償する**責任を負う**。
- 第712条（責任能力）
  未成年者は，他人に損害を加えた場合において，自己の行為の責任を弁識するに足りる知能を備えていなかったときは，その行為について賠償の**責任を負わない**。
- このような，**原則と例外の関係**を三段論法によって正当化することはできるであろうか。

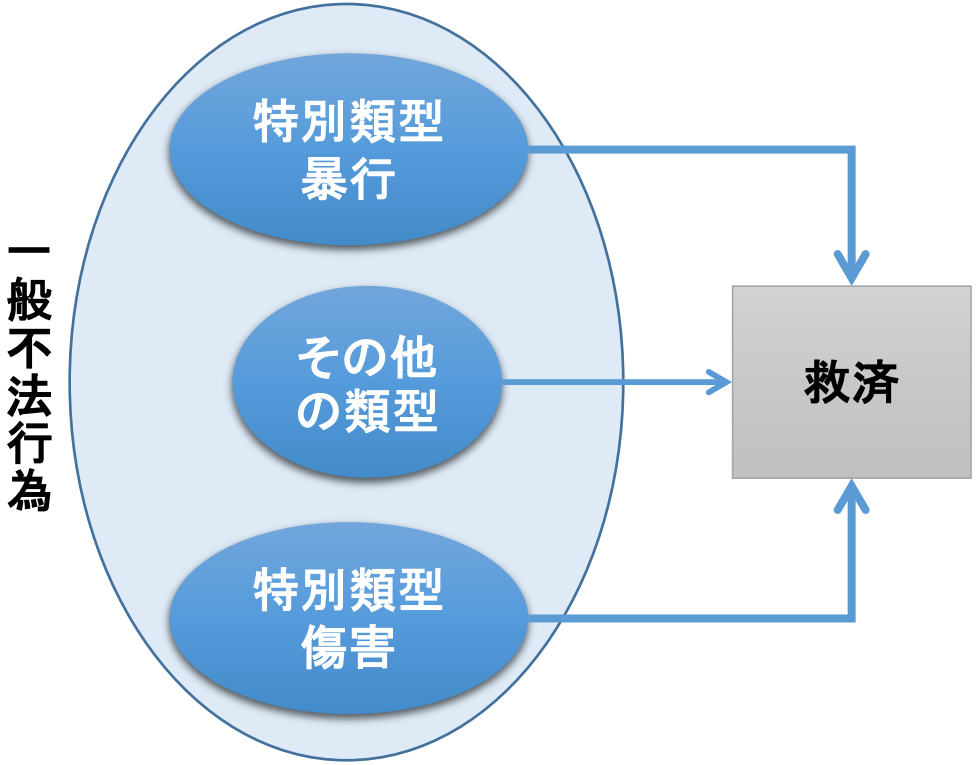
刑法と民法との対比

■ 刑法（罪刑法定主義）



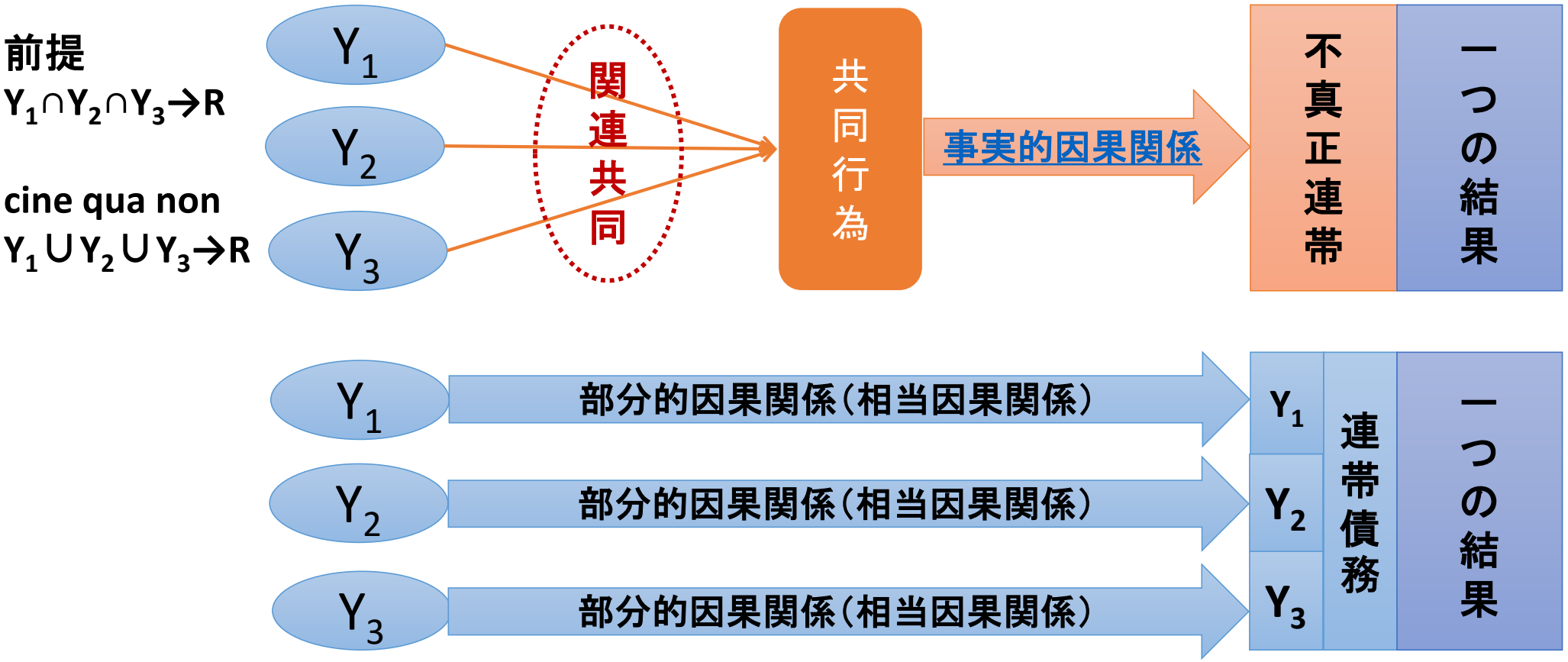
人権擁護のために類型論を保持

■ 民法（被害の救済）



被害者救済のために一般法を承認

因果関係とは何か？
事実的因果関係と相当因果関係



判決三段論法

大前提：人間は死ぬ
小前提：ソクラテスは人間である

結論：ソクラテスは死ぬ

大前提
小前提
結論

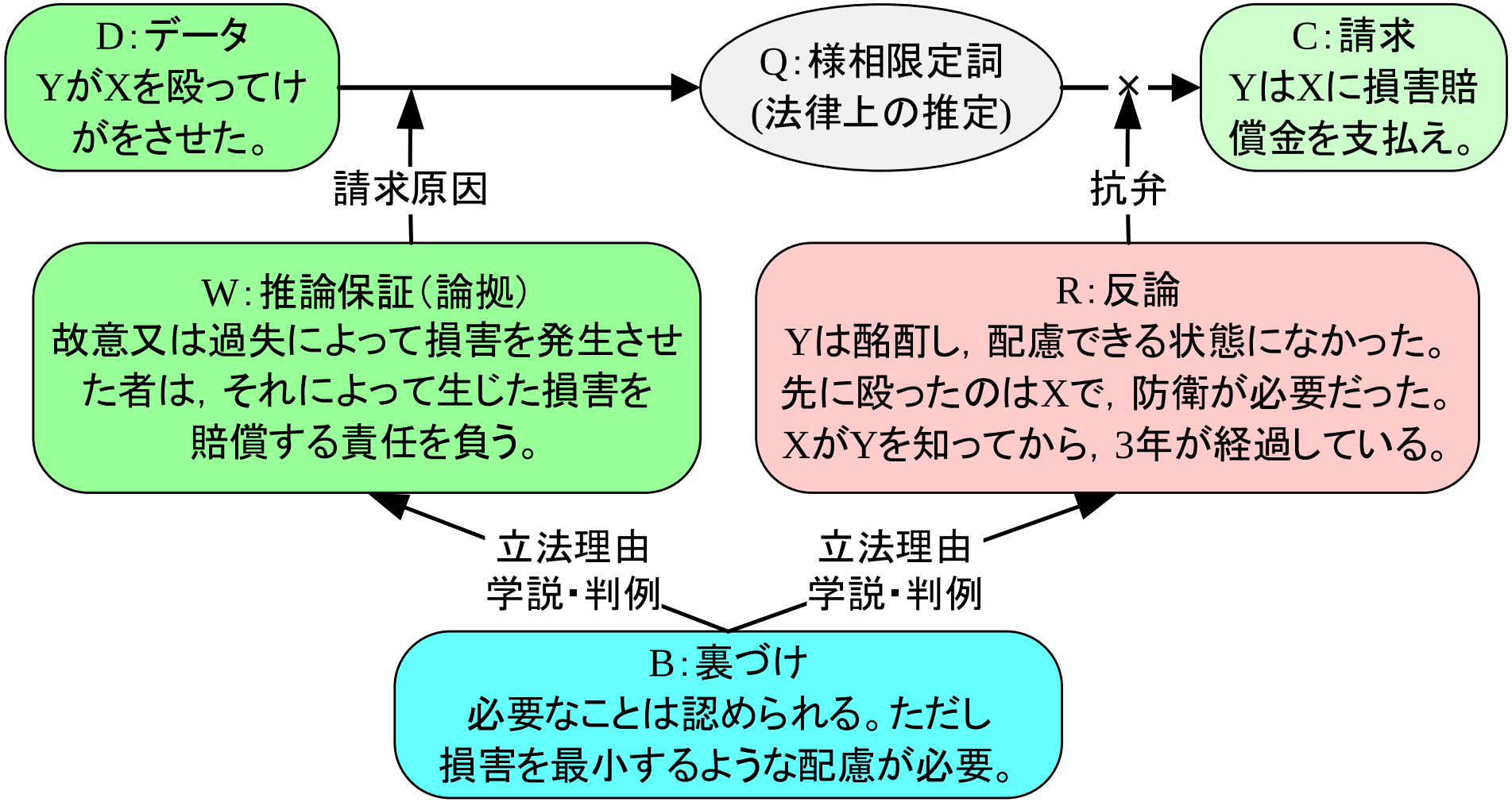
実体法のルール：故意または過失によって他人の権利を侵害した者は，
発生した損害について，損害賠償責任を負う（民法709条）。

訴訟における事実認定と当てはめ：Yは、過失によって（脇見運転をしていて）
Xに衝突して，Xに全治3ヶ月の傷害(損害額100万円)を負わせた。

裁判による判決：YはXに対して100万円支払え。

実体法
事実認定
実体法の適用

不法行為に関するトゥールミン図式



科学的推論の3類型

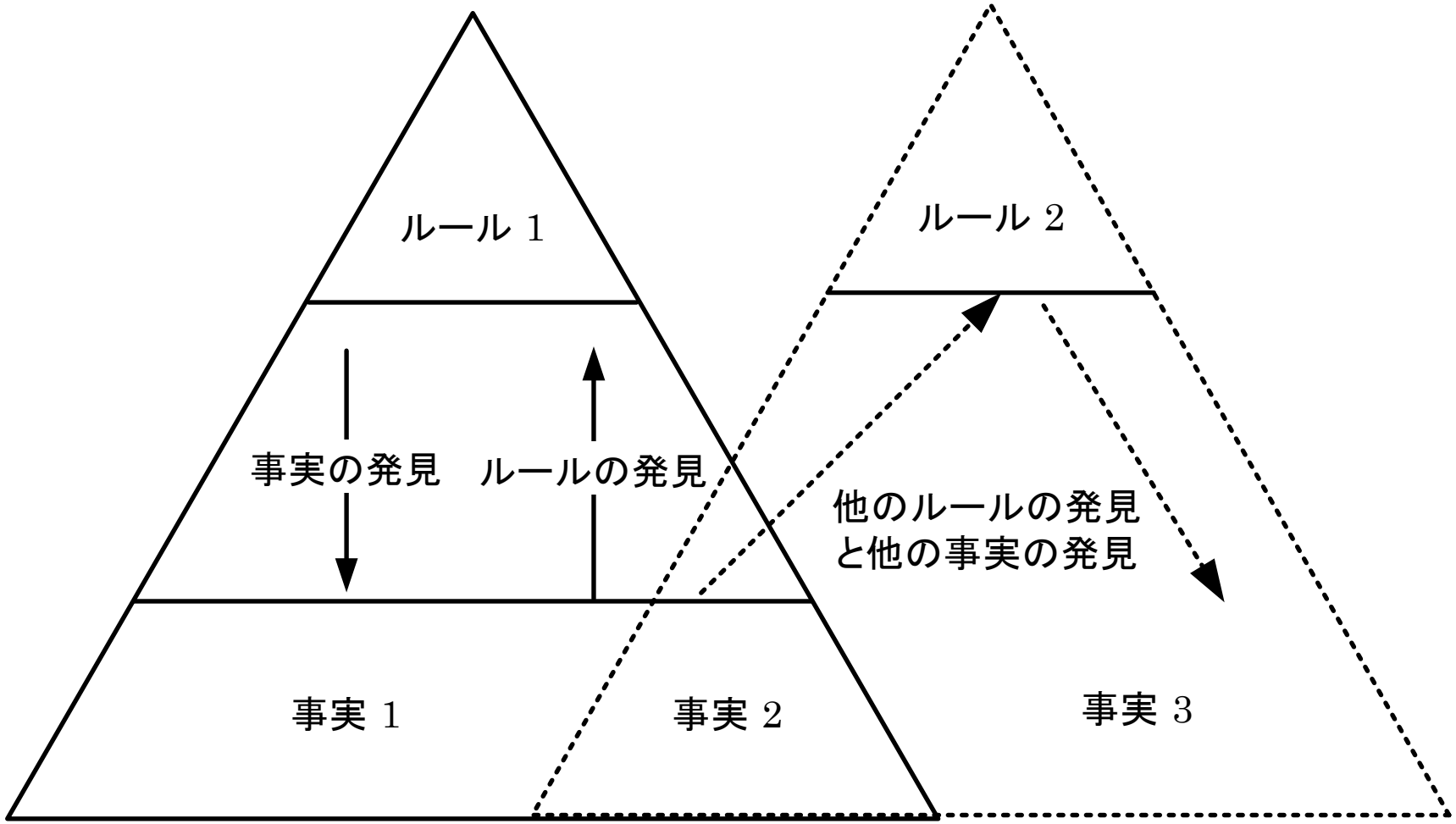
演繹から帰納，そして「発見の推論」へ

- 演繹（三段論法）（deduction）
  - 全ての惑星は太陽を1つの焦点とした楕円軌道を描く。
  - 火星は惑星である。
  - 故に，火星は，太陽を1つの焦点とした楕円軌道を描く。
- 帰納法（induction）
  - 水星，金星，火星…は，太陽を1つの焦点とした楕円軌道を描く。
  - 水星，金星，火星…は惑星である。
  - 故に，全ての惑星は，太陽を1つの焦点とした円軌道を描く。
- **発見の推論（abduction）**
  - 火星は惑星である。
  - 火星は，太陽を1つの焦点とした楕円軌道を描く（ティコ・ブラーエの観測結果を基にケプラーが発見）。
  - 故に，全ての惑星は，太陽を1つの焦点とした楕円軌道を描く（ケプラーの法則の定式化）。

アイラック(IRAC)とは何か

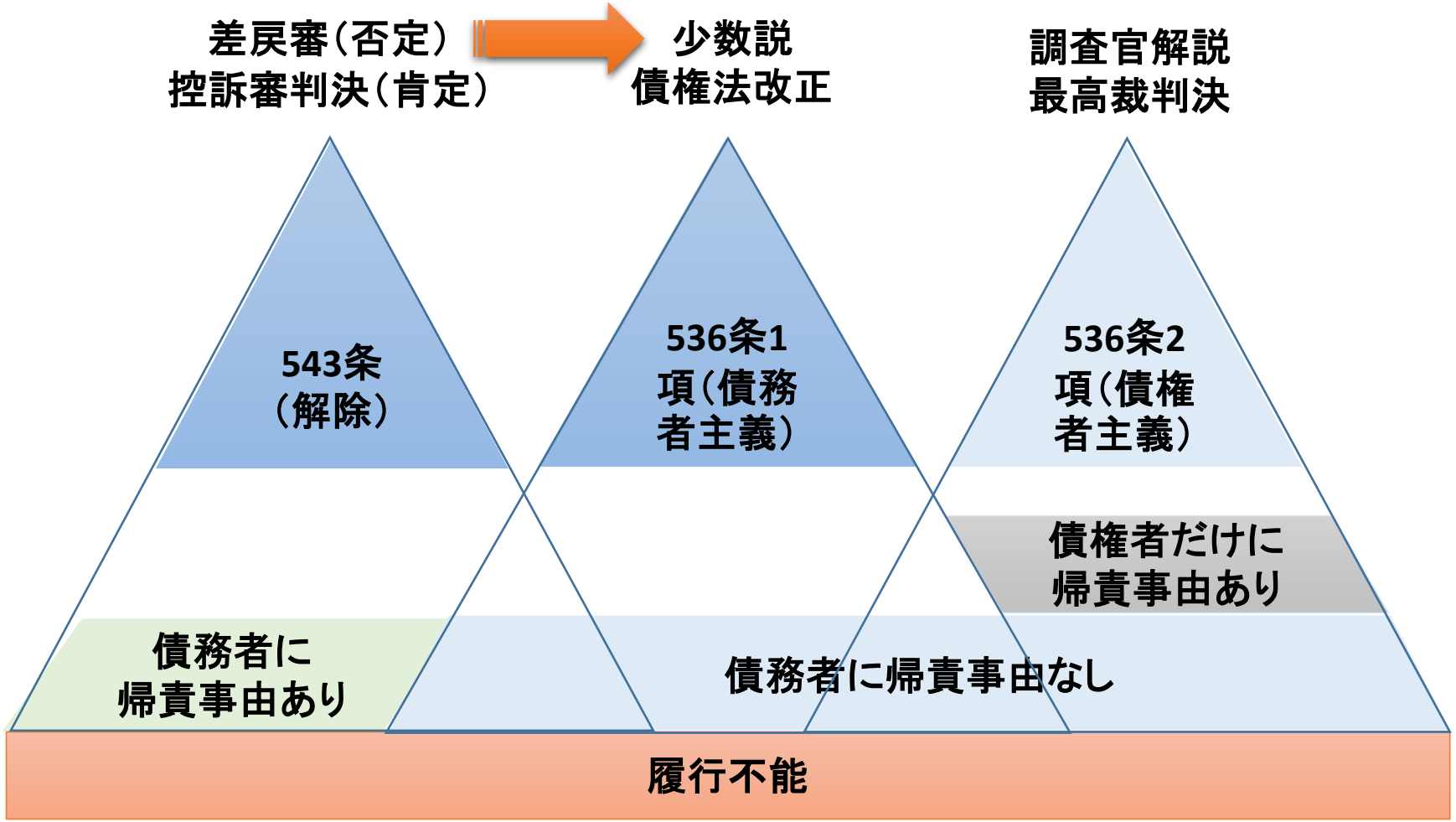
IRAC（アイラック）で考え，論証する			
法的分析能力	Issue		論点・事実の発見
	Rules		ルールの発見
	A	Application	ルールの適用
法的議論の能力		Argument	原告・被告の議論
	Conclusion		具体的な結論

事実とルールとの間の相互関係

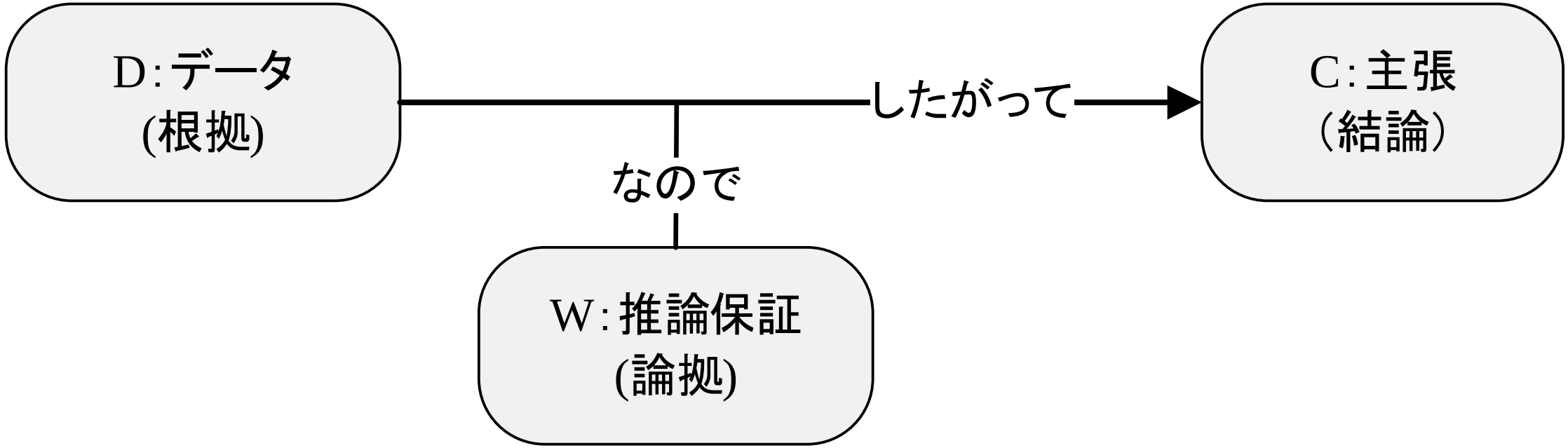


KAGAYAMA Shigeru, 2016

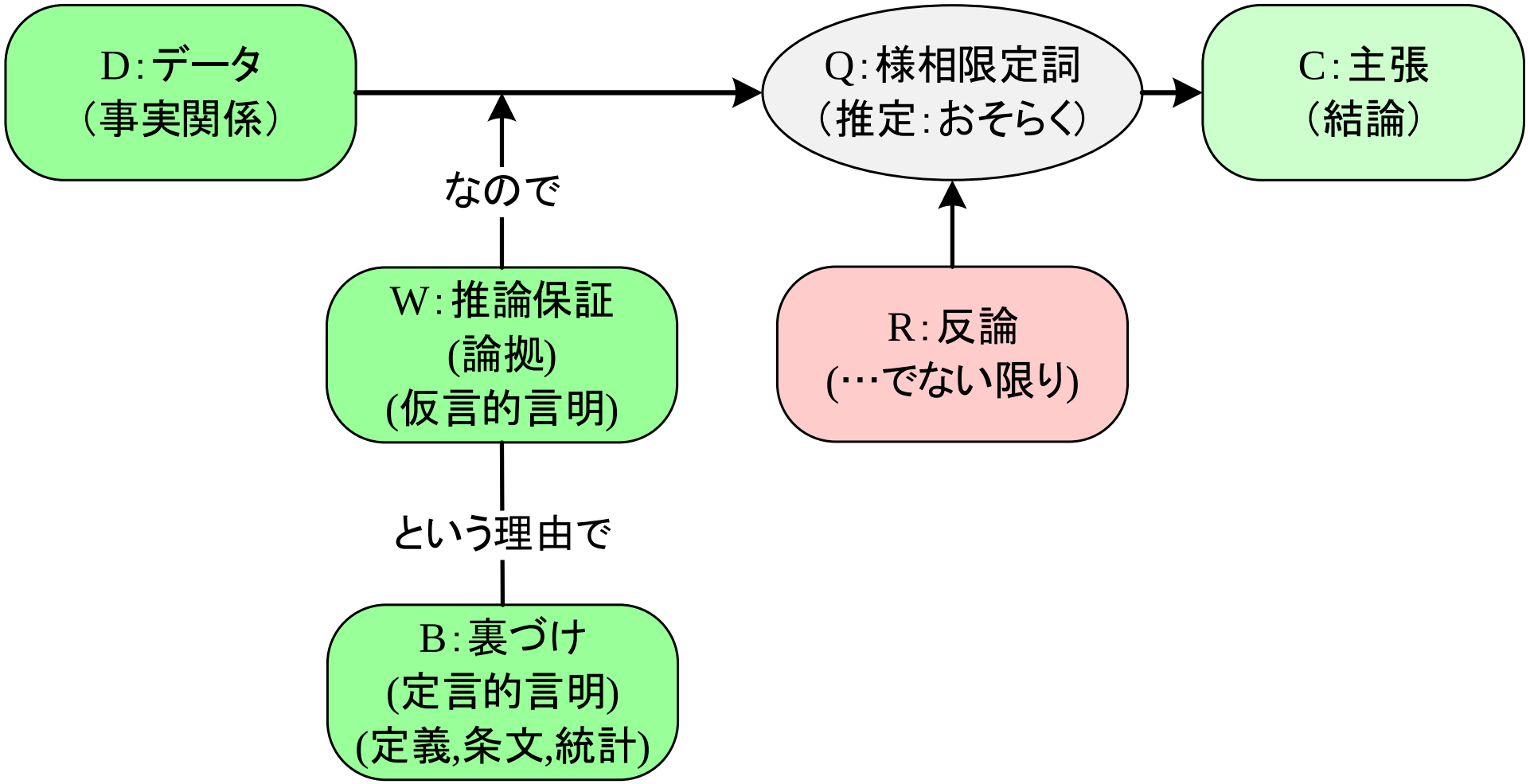
漁網用タール事件（最三判昭30・10・18）



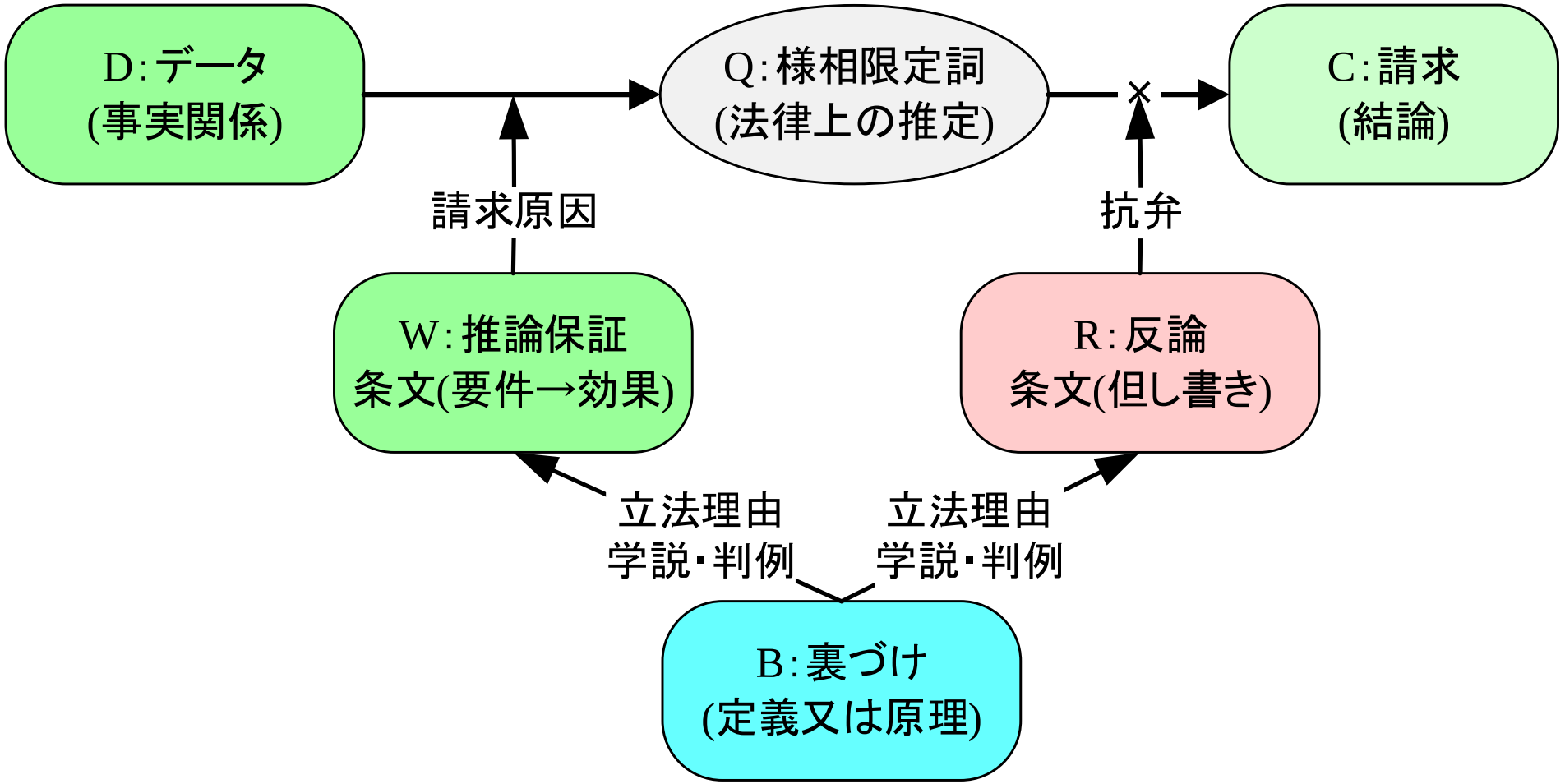
トゥールミンの図式の第1段階→2, 3



トゥールミンの図式の第2段階←1，→3



トゥールミンの図式から法的議論の図式へ←1，2

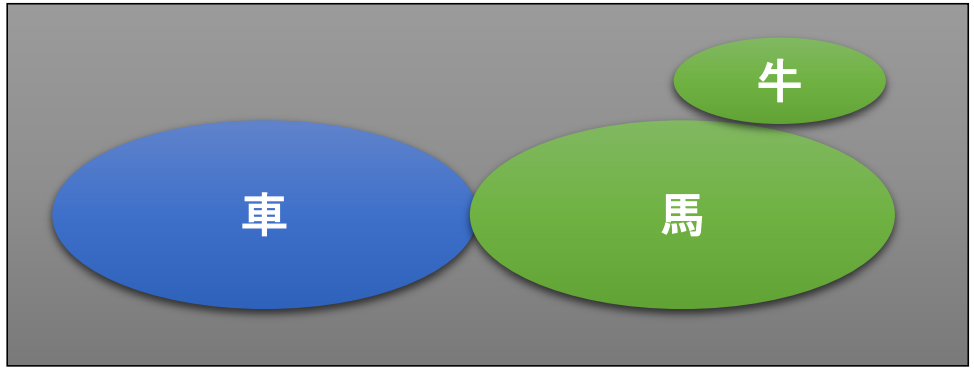


法の解釈はなぜ必要か？
法の解釈とはどのような作業か？

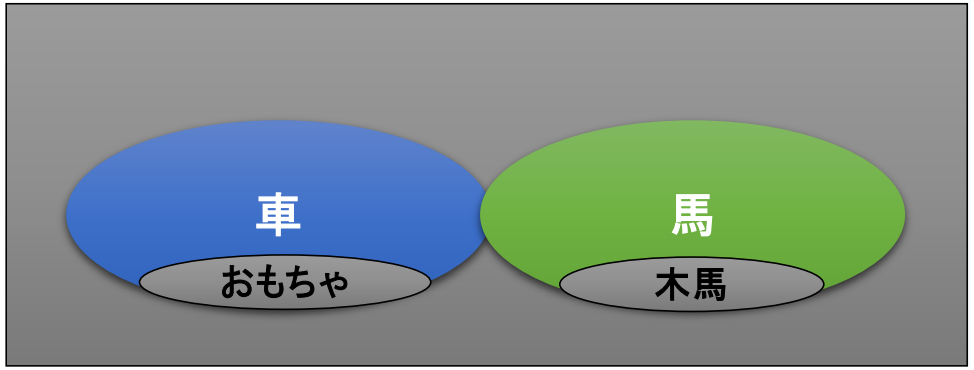
- **憲法第76条**
  ③すべて裁判官は，その良心に従ひ独立してその職権を行ひ，この憲法及び法律にのみ拘束される。
- 世の中で生じるすべての訴訟について，憲法または法律の条文だけを根拠に判決を下そうとするので，法律の条文の解釈が必要となるのだろうか。

「車馬通行止め」というルールの解釈

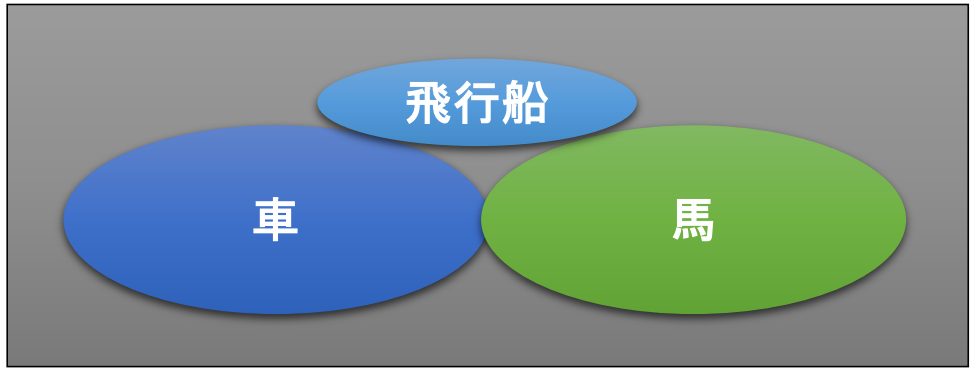
拡大解釈



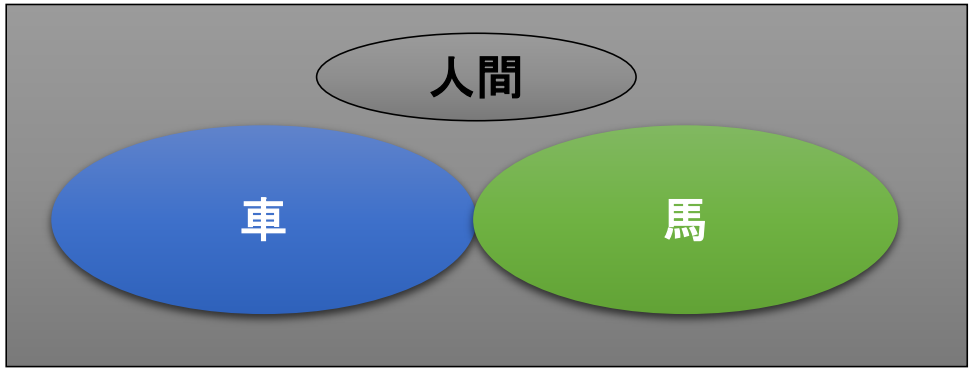
縮小解釈



類推解釈



反対解釈



具体的な条項と抽象的な条項との間の優先関係

- 不倫をしたら，民法770条の具体的な条項（第1条第1号）にしたがって，必ず離婚されるのだろうか？
- 民法770条に具体的には書かれていないこと，例えば，配偶者に暴力をふるったら，離婚されるのだろうか？
- 民法770条1項1号から4号までの具体的な条項と，第1項第5号の抽象的な条項とは，どのような関係にあるのだろうか。

裁判上の離婚原因（現行民法）

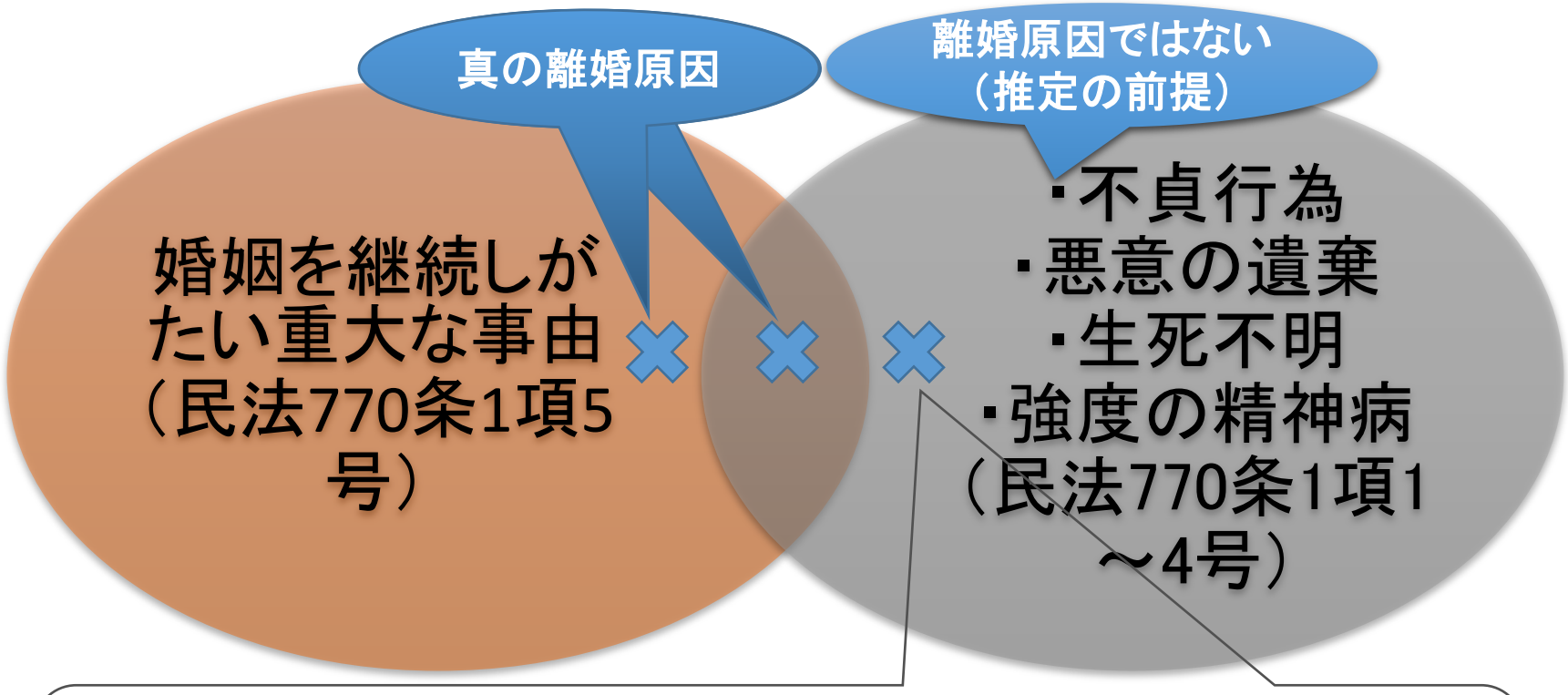
- 第770条（裁判上の離婚）
  - ①夫婦の一方は，次に掲げる場合に限り，**離婚の訴えを提起することができる。**
    - 一　配偶者に不貞な行為があったとき。
    - 二　配偶者から悪意で遺棄されたとき。
    - 三　配偶者の生死が3年以上明らかでないとき。
    - 四　配偶者が強度の精神病にかかり，回復の見込みがないとき。
    - 五　その他**婚姻を継続し難い重大な事由**があるとき。
  - ②裁判所は，前項**第1号から第4号までに掲げる事由がある場合であっても**，一切の事情を考慮して婚姻の継続を相当と認めるときは，**離婚の請求を棄却することができる。**

離婚申し立ての原因

司法統計年報：離婚の申し立ての動機別割合　－平成10年－

夫の言い分			妻の言い分		
順位	夫からの離婚申立て	当てはめ	順位	妻からの離婚申立て	当てはめ
1	**性格の不一致**	－	1	**性格の不一致**	－
2	親族との折り合いが悪い	－	2	**暴力をふるう**	－
3	**異性関係**	1号	3	**異性関係**	1号
4	**浪費**	－	4	**生活費を渡さない**	－
5	異常性格	－	5	**精神的虐待**	－
6	**同居に応じない**	－	6	**浪費**	－
7	**精神的虐待**	－	7	家族を捨てて省みない	2号
8	**性的不満**	－	8	親族との折り合いが悪い	－
9	家族を捨てて省みない	2号	9	酒を飲みすぎる	－
10	**暴力をふるう**	－	10	異常性格	－

民法770条（裁判上の離婚原因）の分析



■ **民法770条（裁判上の離婚）**

■ ②裁判所は，前項第一号から第四号までに掲げる事由がある場合であっても，一切の事情を考慮して**婚姻の継続を相当と認めるときは，離婚の請求を棄却することができる。**

裁判上の離婚原因(改正私案)

- 民法**第770条**の改正私案(構造化)①:要件,②:例示(推定の前提)
  - ①夫婦の一方は,**婚姻を継続し難い重大な事由**があるときに限り,離婚の訴えを提起することができる。
  - ②以下の各号に該当する場合には,**婚姻を継続し難い重大な事由があるものと推定する**。
    - 一　配偶者に不貞な行為があつたとき。
    - 一の二　**配偶者から虐待を受けたとき**。
    - 二　配偶者から悪意で遺棄されたとき。
    - 二の二　配偶者が,第752条の規定に違反して,**協力義務を履行しないとき**。
    - 二の三　配偶者が,第760条の規定に違反して,**婚姻費用の分担義務を履行しない**とき。
    - 三　配偶者の生死が3年以上明かでないとき。
    - 三の二　夫婦が**5年以上別居**しているとき。(←民法改正要綱案参照)
    - 四　配偶者が強度の精神病にかかり,回復の見込がないとき。

民法612条の解釈：例文解釈

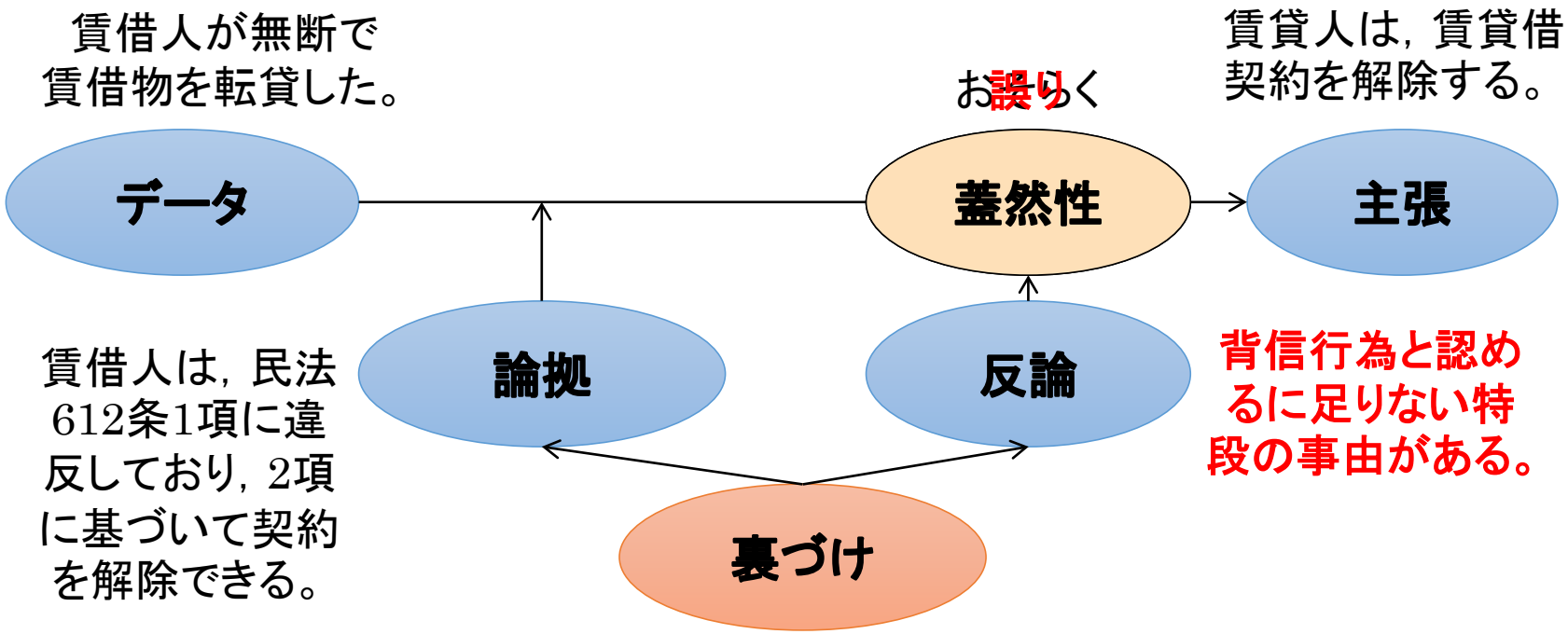
最も困難な解釈のひとつ

- 「白を黒」，「黒を白」と言い含める法外な解釈の例
- 民法770条の場合には，包括要件が一応示されていた。
- 民法612条の場合には，包括要件は示されていない。
- 隠された包括要件は，どのようにして発見されたのか？

民法612条（無断譲渡・転貸と契約解除）

- **第612条**（賃借権の譲渡及び転貸の制限）
  - ①賃借人は，賃貸人の承諾を得なければ，その賃借権を譲り渡し，又は**賃借物を転貸することができない**。
  - ②賃借人が前項の規定に違反して第三者に賃借物の使用又は収益をさせたときは，賃貸人は，**契約の解除をすることができる**。

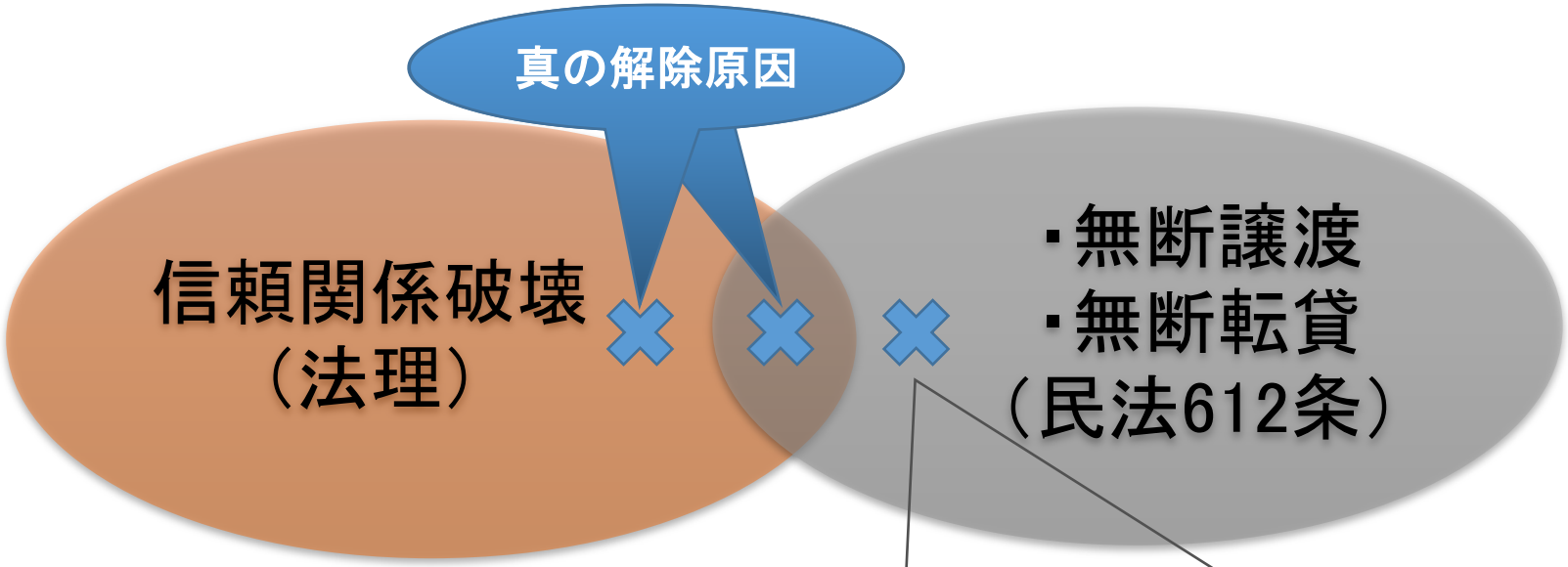
民法612条のトゥールミン図式



無断譲渡・転貸の場合に賃貸借契約を解除できるかどうか：

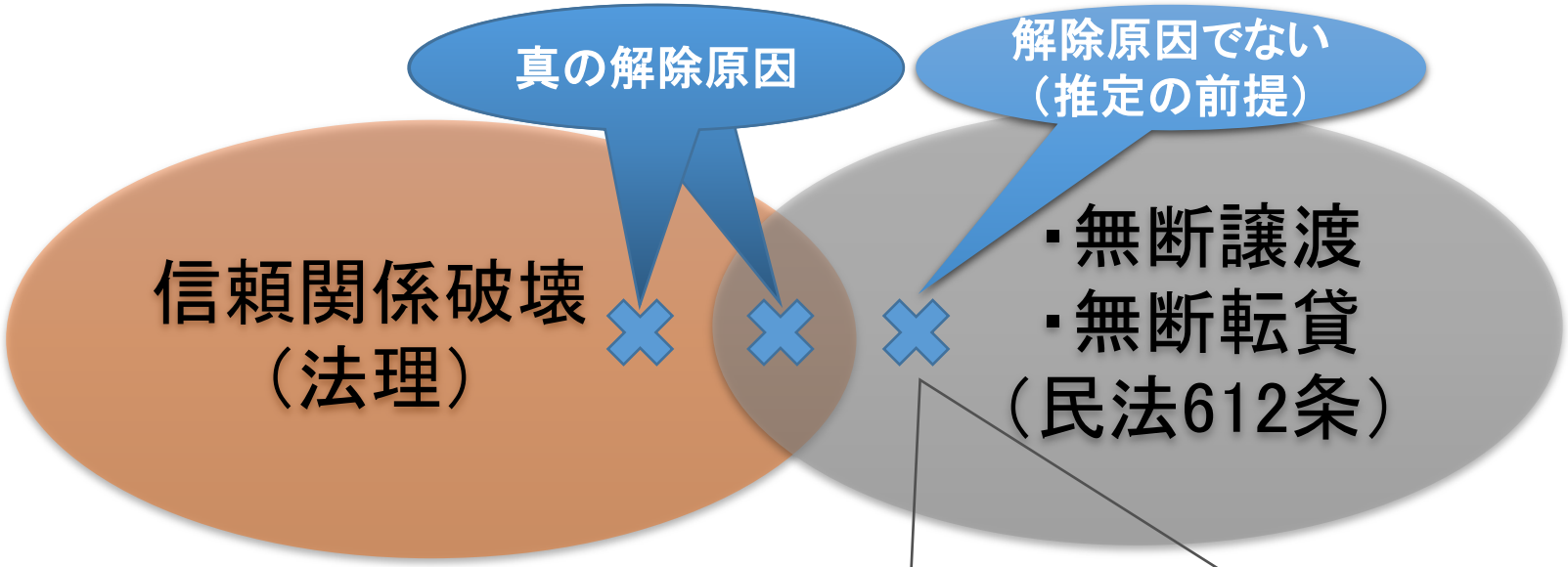
1. 継続的契約関係の当事者が，信頼関係を破壊したときは，契約を解除できる（原則）。
2. 賃借人が無断譲渡・転貸を行ったときは，信頼関係の破壊が推定される（推定規定）。
3. **信頼関係を破壊したと認められない事由があるときは，契約は解除できない（例外）。**

民法612条（無断転貸）の分析（1/3）



- **第612条（賃借権の譲渡及び転貸の制限）**
  - ①賃借人は，賃貸人の承諾を得なければ，その賃借権を譲り渡し，又は賃借物を転貸することができない。
  - ②賃借人が前項の規定に違反して第三者に賃借物の使用又は収益をさせたときは，賃貸人は，**契約の解除をすることができる**。

民法612条（無断転貸）の分析（2/3）



- **最一判昭41・1・27民集20巻1号136頁**
  - 土地の賃借人が賃貸人の承諾を得ることなくその賃借地を他に転貸した場合においても，賃借人の右行為を賃貸人に対する背信行為と認めるに足りない特段の事情があるときは，**賃貸人は民法612条2項による解除権を行使し得ない。**

「信頼関係破壊の法理」はいかにして発見されたのか

賃借人保護の必要性

背信行為に当たらない場合に解除を制限

「信頼関係破壊の法理」の確立

住宅事情の悪化

信義則・権利濫用の活用
事実認定の工夫

解雇権濫用禁止の法理の類推
末弘・川島・戒能

社会的背景

判例

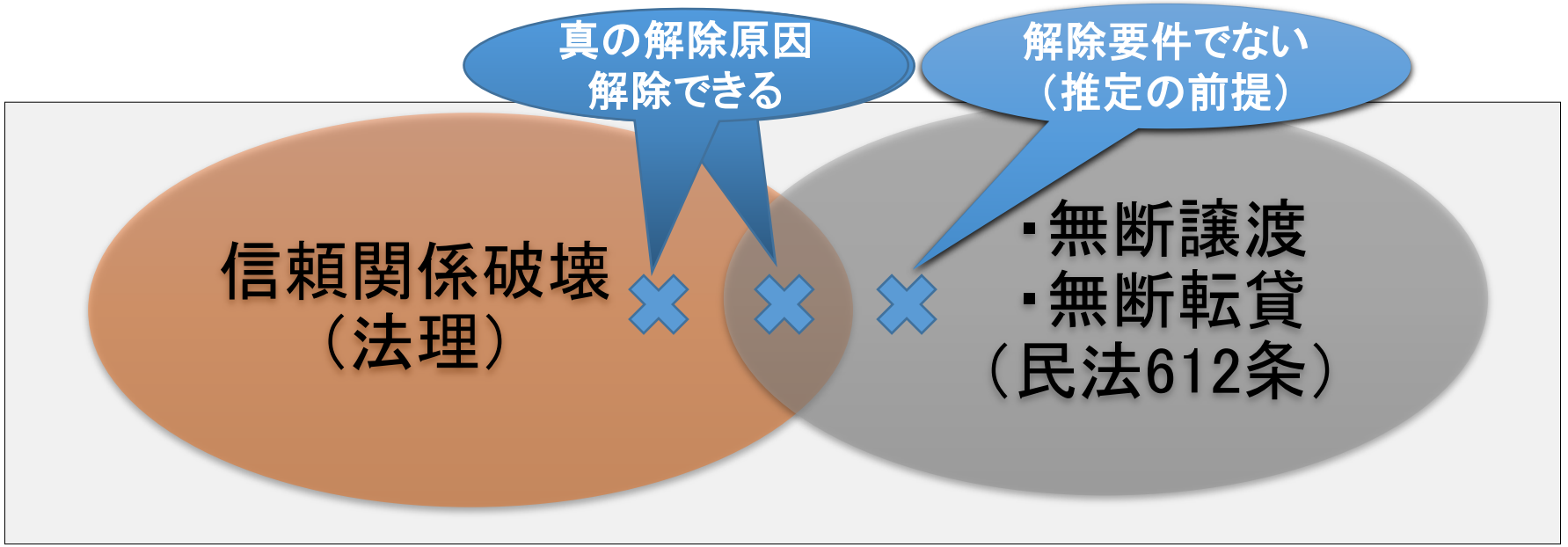
学説

広中俊雄『債権各論講義』有斐閣（1979）173－180頁参照。

民法612条（改正私案）

- **第612条**（賃借権の譲渡及び転貸の制限）（民法改正私案）
  - ①賃借人が契約の目的に違反して使用又は収益をしたため，賃貸人と賃借人との間の**信頼関係が破壊されるに至ったとき**は，賃貸人は，契約の解除をすることができる。
  - ②賃借人が，賃貸人の承諾を得ないで，その賃借権を譲り渡し，又は賃借物を転貸したときは，**信頼関係が破壊されたものと推定**し，賃貸人は，契約の解除をすることができる。
  - ただし，賃借人の行為が，賃貸人に対する**背信行為と認めるに足りない特段の事情があることを賃借人が証明したときは，**賃貸人は，**契約の解除をすることができない**。

民法612条（無断転貸）の分析（3/3）

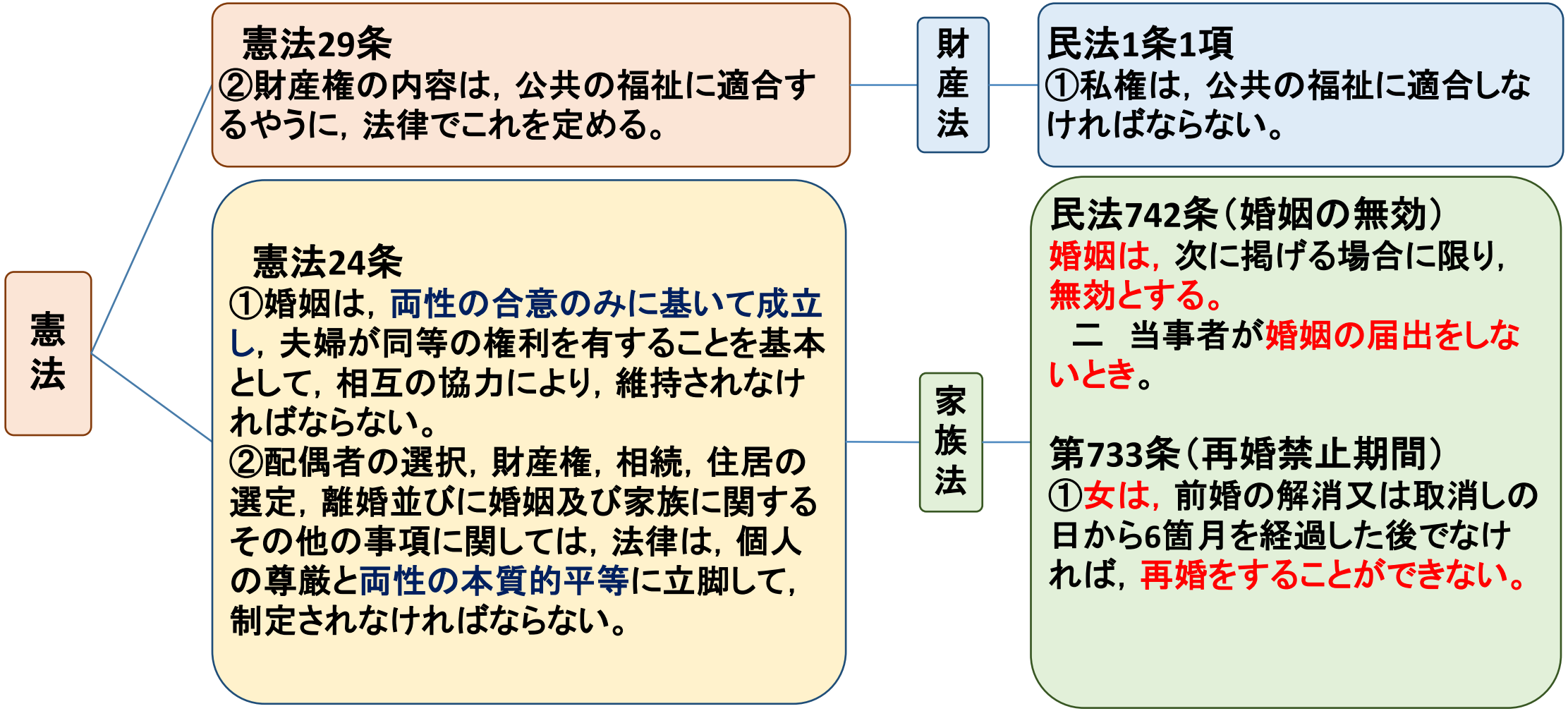


- **第612条**（賃借権の譲渡及び転貸の制限）（加賀山茂「**改正私案**」）
  - ①賃借人が契約の目的に違反して使用又は収益をしたため，賃貸人と賃借人との間の信頼関係が破壊されるに至ったときは，そのときに限り，賃貸人は，契約の解除をすることができる。
  - ②賃借人が，賃貸人の承諾を得ないで，その賃借権を譲り渡し，又は賃借物を転貸したときは，信頼関係が破壊されたものと推定する。
  - ただし，賃借人の行為が，賃貸人に対する背信行為（信頼関係の破壊）と認めるに足りない特段の事情があることを賃借人が証明したときは，賃貸人は，契約の解除をすることができない。

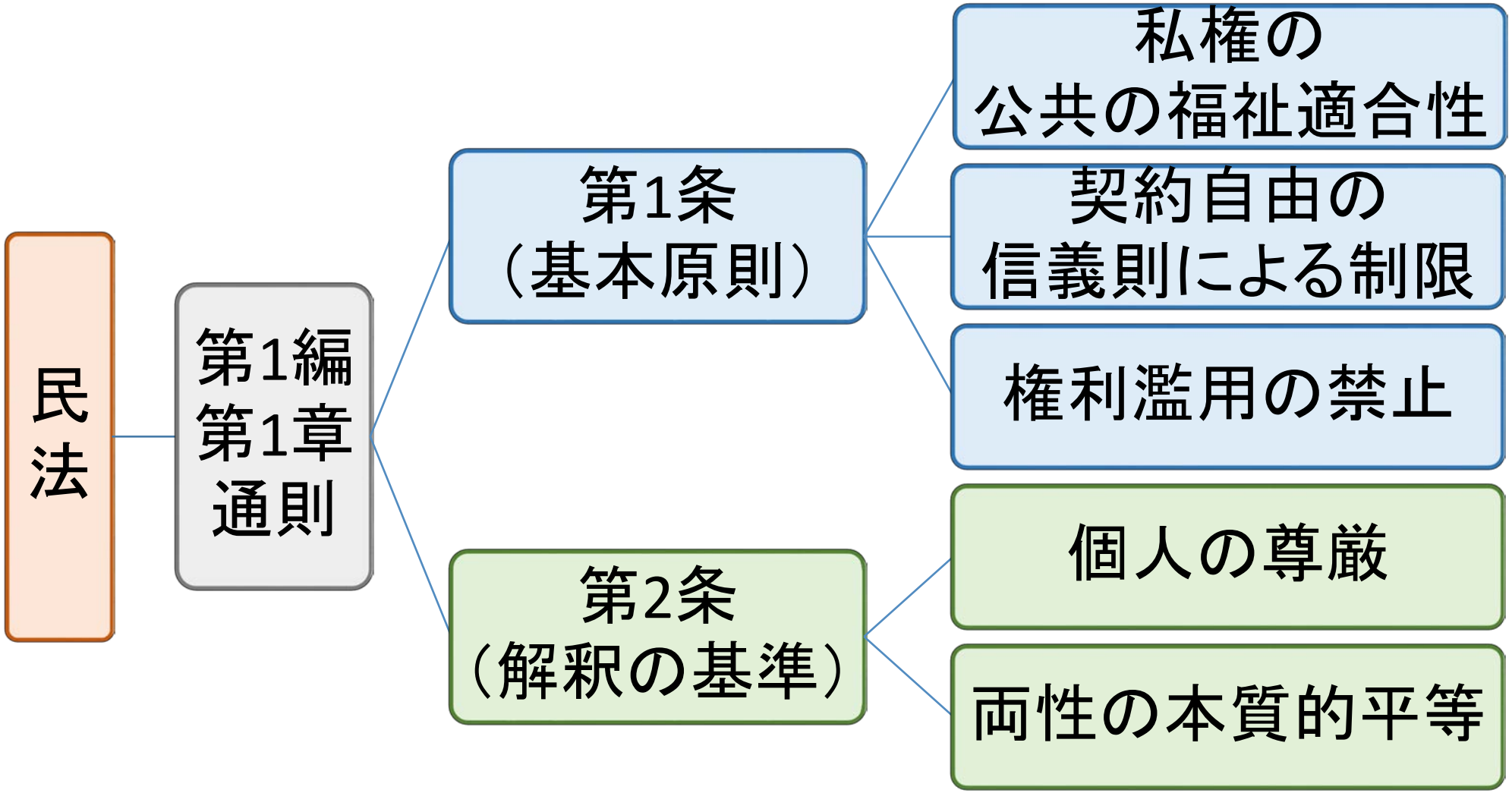
法教育の今後の研究の課題

- 契約法の法教育を実現するための研究
（民法のGoogleマップを作成する試み）
  - 憲法と民法との関係
  - 民法通則の改正
  - 不法行為法の電気回路図化
  - 契約のフロー図
    - 契約成立のフロー図
    - 契約の有効・無効と権利外観法理との関係
  - 契約の類型
  - 契約法の全体像の論理式（Prolog）による表現

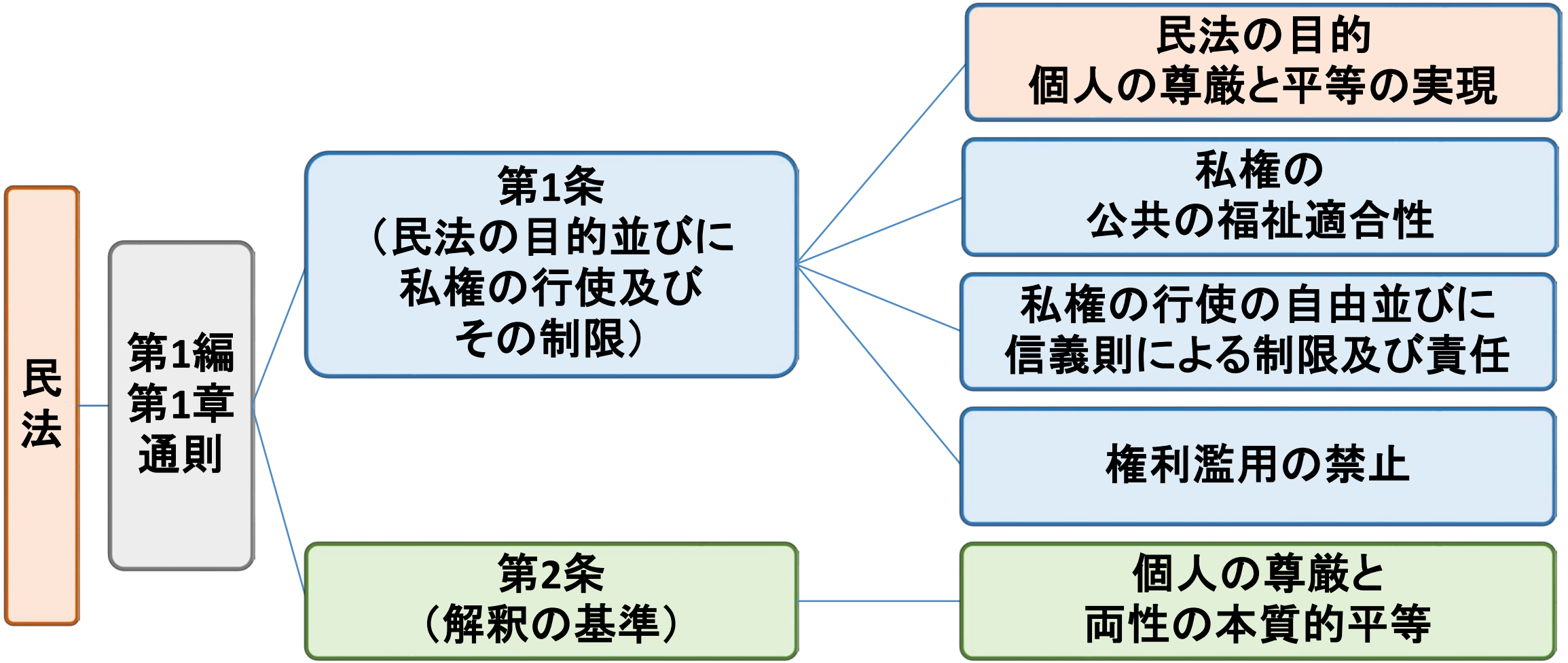
憲法と民法との関係


憲法
憲法29条
②財産権の内容は，公共の福祉に適合するやうに，法律でこれを定める。
財産法
民法1条1項
①私権は，公共の福祉に適合しなければならない。
憲法24条
①婚姻は，両性の合意のみに基いて成立し，夫婦が同等の権利を有することを基本として，相互の協力により，維持されなければならない。
②配偶者の選択，財産権，相続，住居の選定，離婚並びに婚姻及び家族に関するその他の事項に関しては，法律は，個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚して，制定されなければならない。
家族法
民法742条（婚姻の無効）
婚姻は，次に掲げる場合に限り，無効とする。
二　当事者が婚姻の届出をしないとき。
第733条（再婚禁止期間）
①女は，前婚の解消又は取消しの日から6箇月を経過した後でなければ，再婚をすることができない。

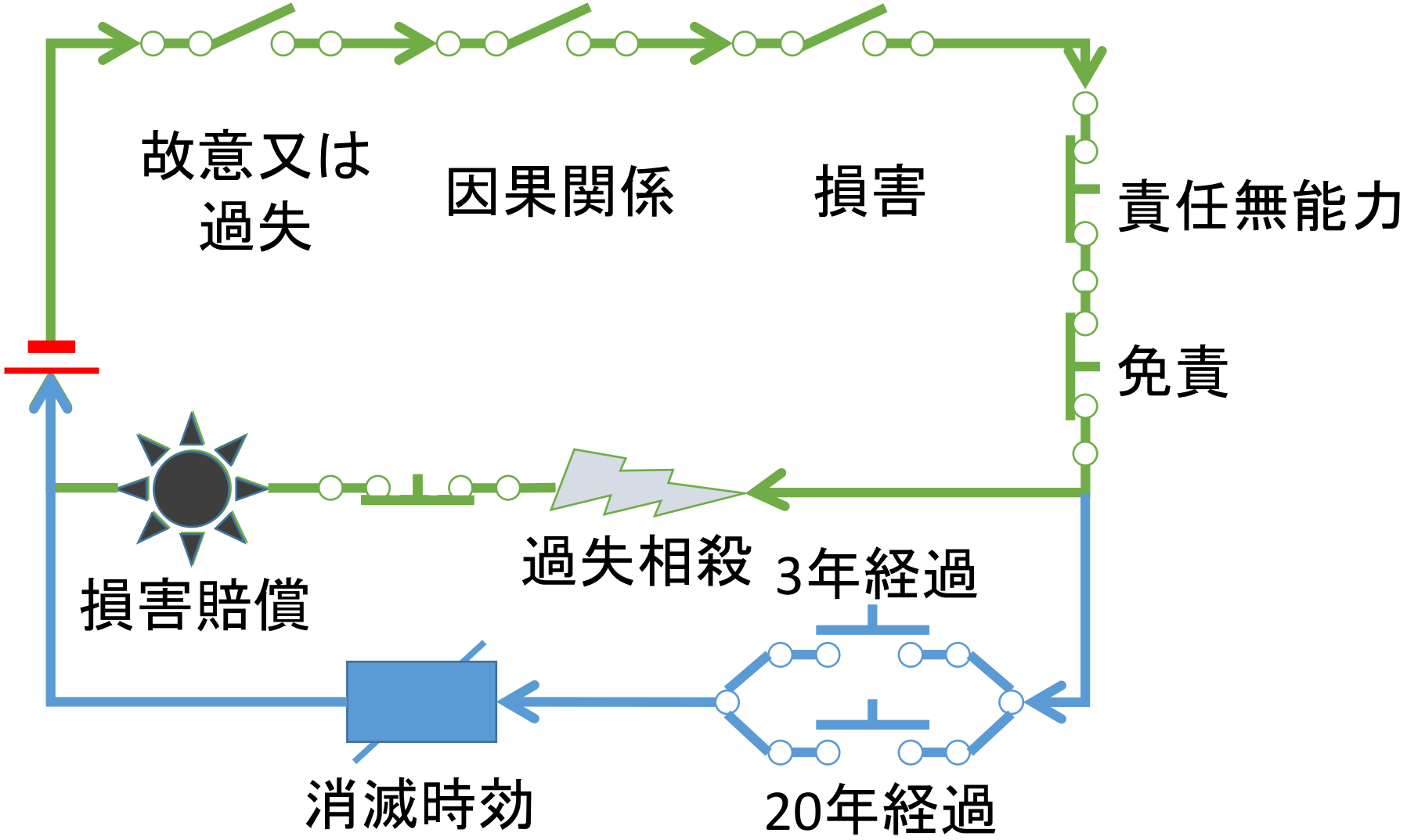
民法通則(現行民法)→改正案



民法の目的，私権の行使とその制限
（加賀山改正私案）←現行法

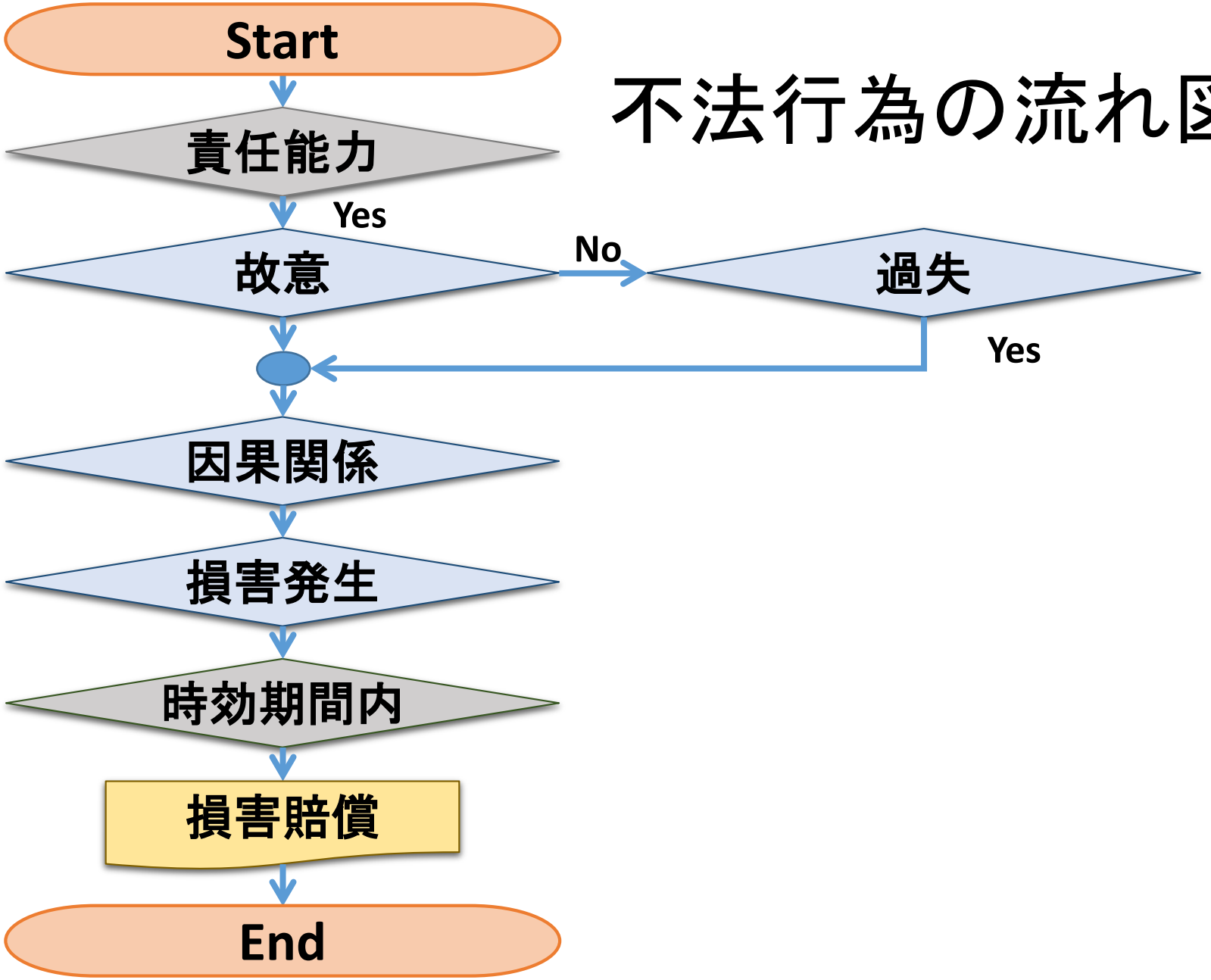


不法行為法の体系化

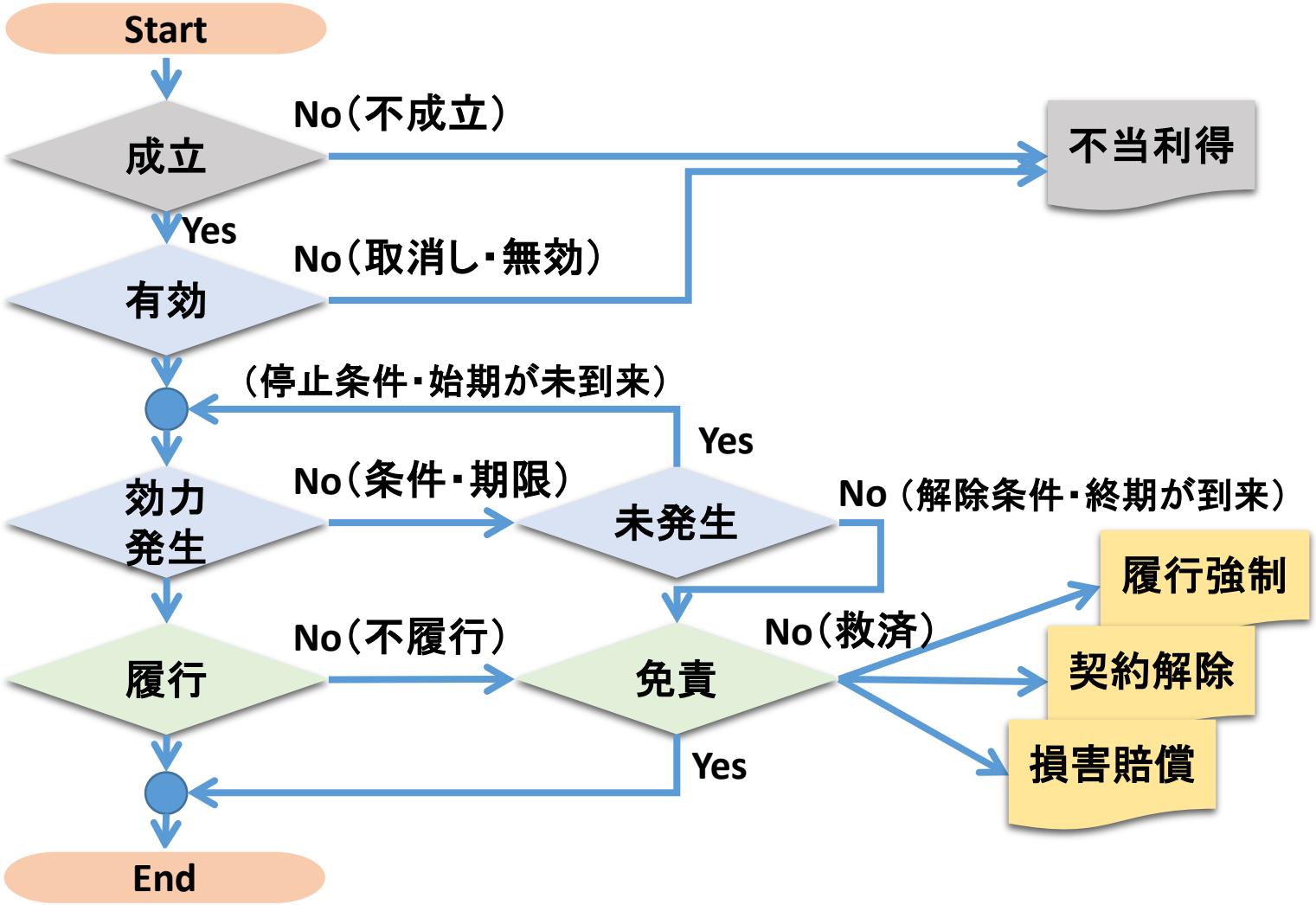


KAGAYAMA Shigeru, 2016

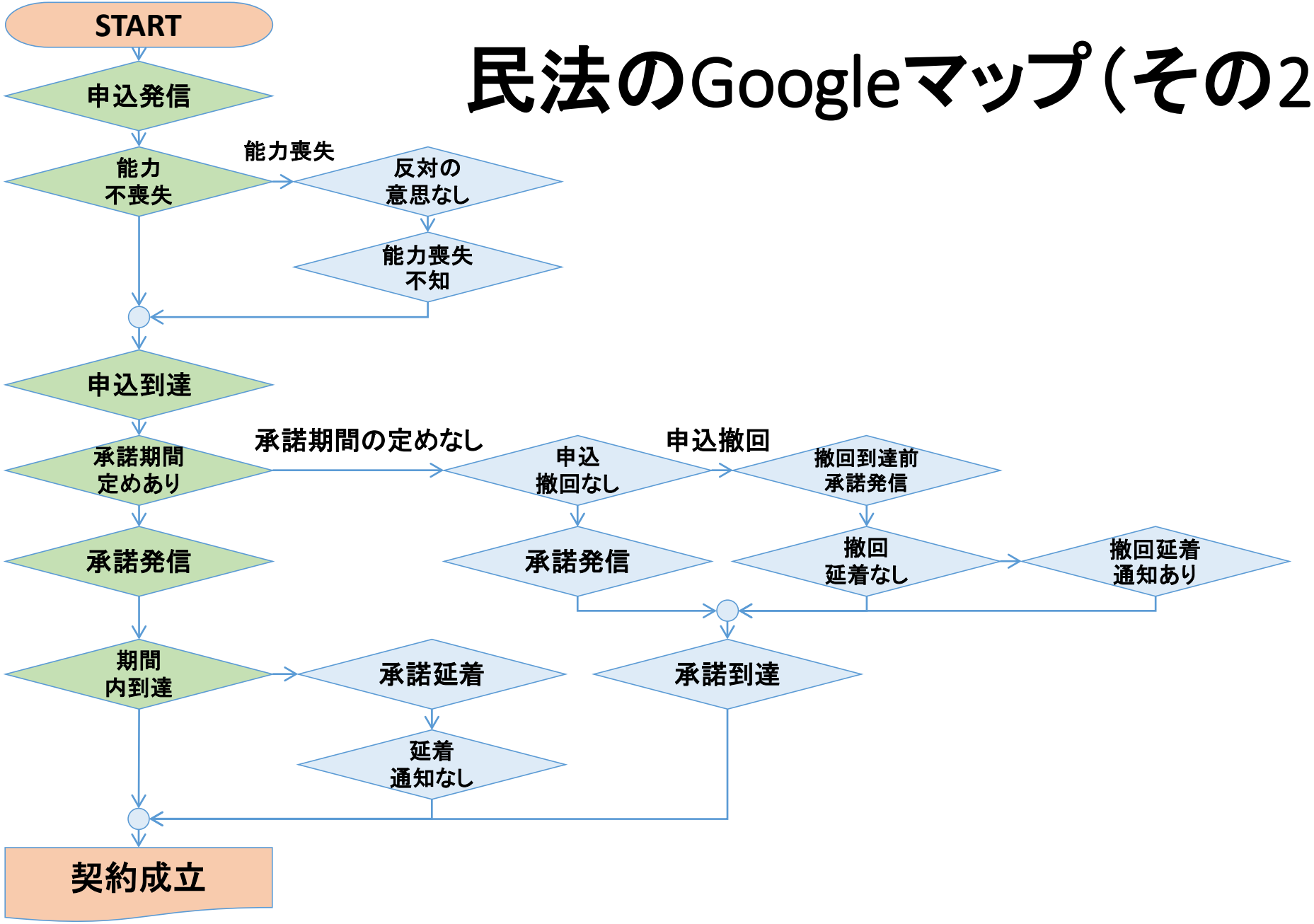
不法行為の流れ図



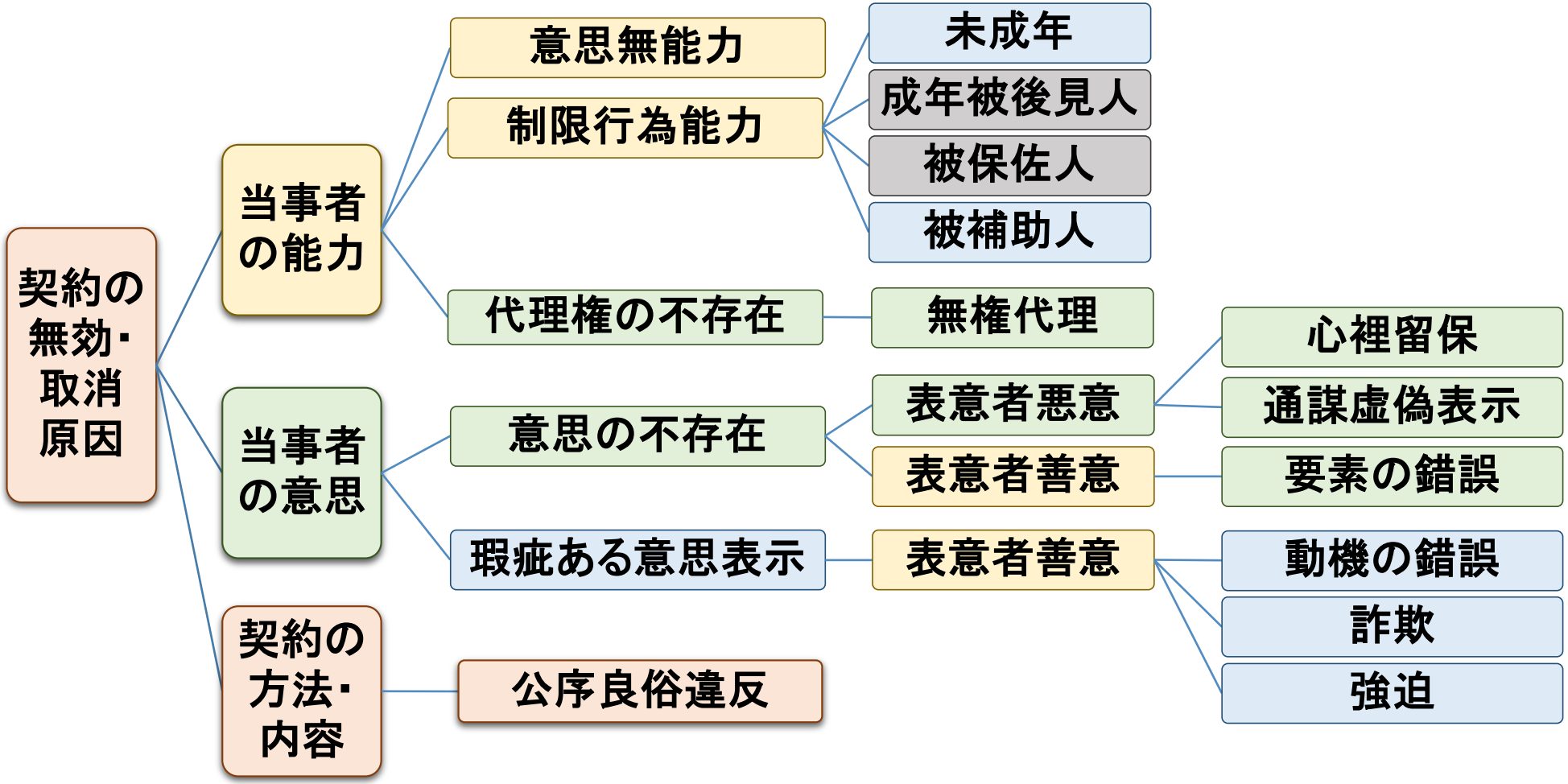
民法のGoogleマップ（その１）



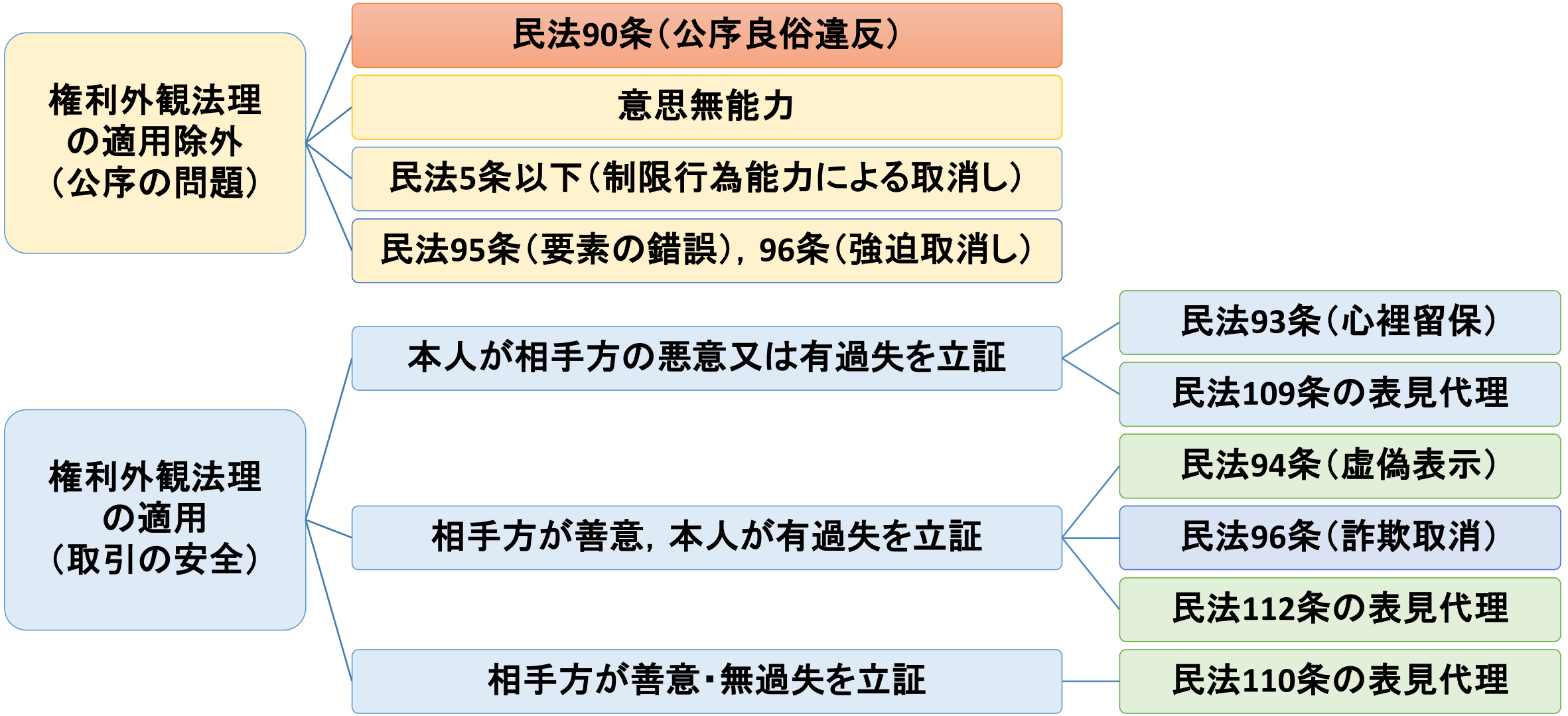
民法のGoogleマップ（その2）



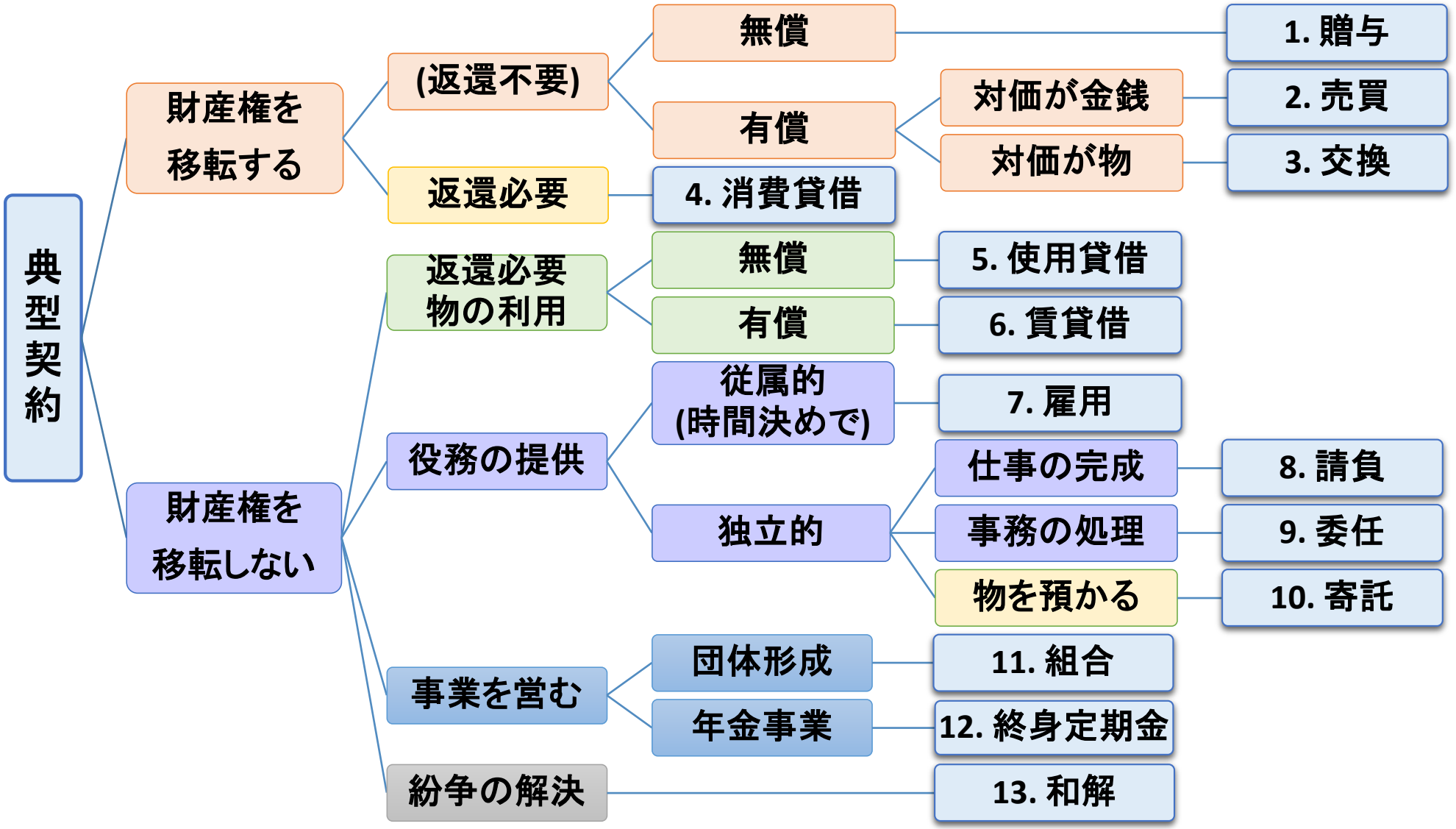
民法のGoogleマップ（その3）



民法のGoogleマップ（その4）



民法のGoogleマップ（その5）



民法のGoogleマップ（その6）

■ % Main

```
claim(price,X,Y) :-
  conclude(sale,X,Y),
  not(invalid(sale,X,Y)),
  not(suspend(sale,X,Y)),
  not(extinguish(sale,X,Y)).
```

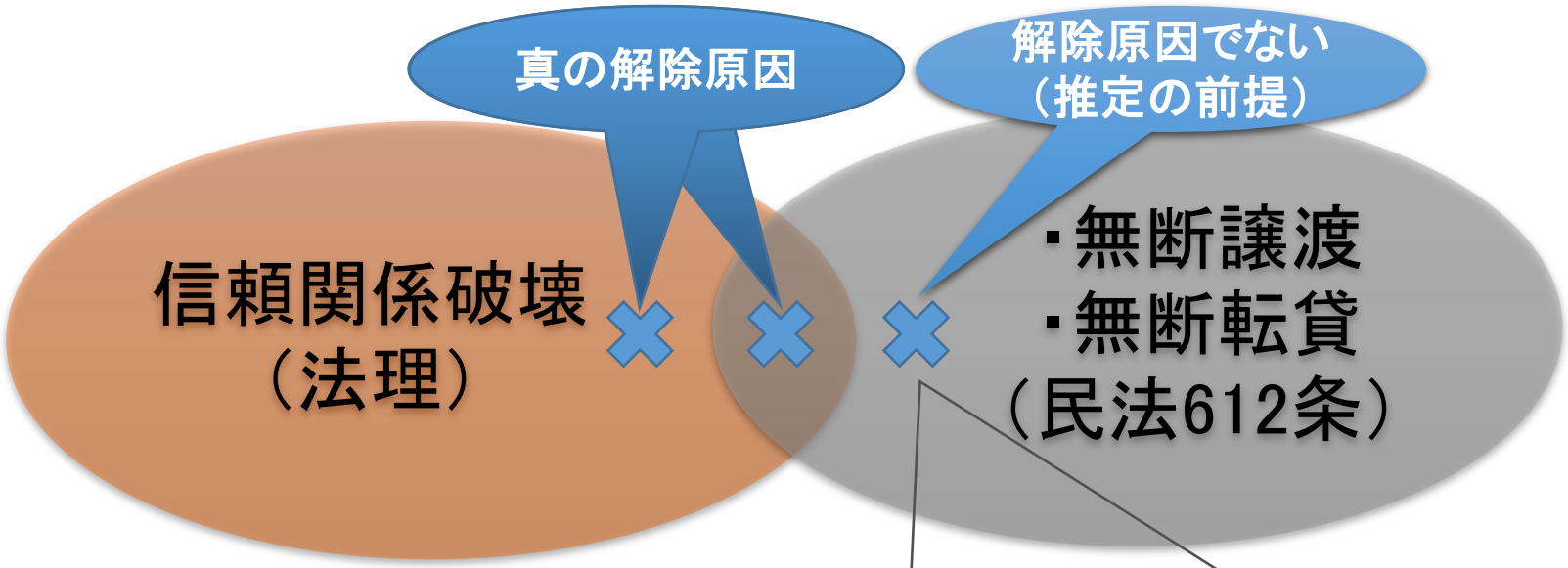
■ % Sub

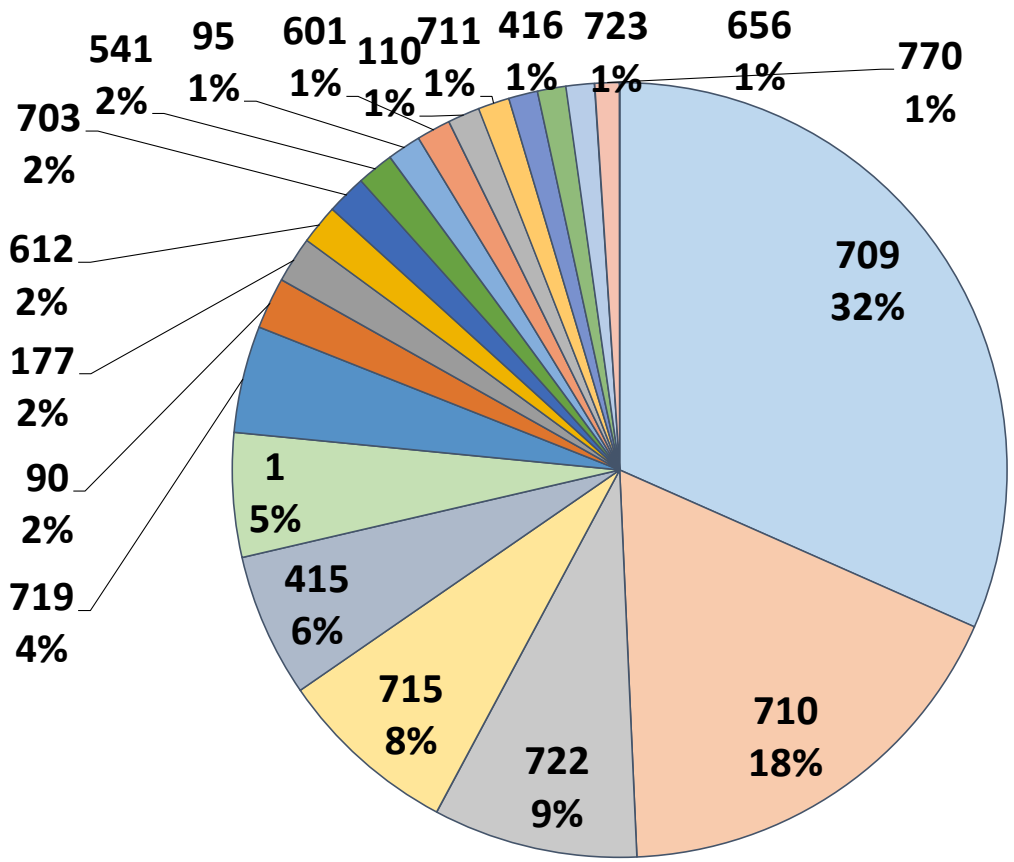
```
invalid(sale,X,Y) :-
  factor_error(sale,Y,X),
  not(grave_negligence(sale,Y,X)).
invalid(sale,X,Y) :-
  factor_error(sale,Y,X),
  grave_negligence(sale,Y,X),
  know(factor_error,X,Y).
suspend(sale,X,Y) :-
  suspend_condition(sale,X,Y),
  not(achieve(Condition,X,Y)).
suspend(sale,X,Y) :-
  time_period(Time,X,Y),
  not(expire(Time,X,Y)).
extinguish(sale,X,Y) :-
  terminate(sale,Y,X).
extinguish(sale,X,Y) :-
  prescription(Time,X,Y),
  Time >= 10.
```

■ % Data（Example）

```
conclude(sale,takahashi,kagayama).
factor_error(sale,kagayama,takahashi).
grave_negligence(sale,kagayama,takahashi).
% know(factor_error,takahashi,kagayama).
```

民法612条（無断転貸）の分析



- **最一判昭41・1・27民集20巻1号136頁**
  - 土地の賃借人が賃貸人の承諾を得ることなくその賃借地を他に転貸した場合においても，賃借人の右行為を賃貸人に対する背信行為と認めるに足りない特段の事情があるときは，**賃貸人は民法612条2項による解除権を行使し得ない。**

民法の適用頻度ベスト20